

2008年10月
益川 敏英

和文リスト

科学と方法、随想

1. 「今、大学院生に望むもの」
1982年新歓講演会記録、創意 12(1982) 京大生協・院生理事会発行
2. 「若手研究者運動と院生の成長」
第13回(1982) 関西院生夏の集い記念講演 記録
3. 日本の科学者京都支部創立20周年記念シンポジウム：
「実験装置の巨大化と新しい概念の模索」、京都の科学者 no118(1986/8/30)
4. 「関西唯物論研究会に望むもの」
唯物論と現代 1988 創刊号 (文理閣)、13
5. 「Russel Einstein 宣言を読む」
report at 核問題懇談会(1990/12/14)
6. 「特集；若手研究者たちの現場；対談 大学改革と現代科学の課題」
(大西広氏と)、日本の科学者 27(1992),260
7. 「自然科学と弁証法」、日本の科学者 27(1992),476
8. 「物理学研究の動向調査(物研連報告)を読んで」
物理学会誌 47(1992),741
9. 「技術と経済誌創刊300号記念特集 21世紀の社会と科学技術；
変化に対応する柔軟な教育」、技術と経済 300(1992),68
10. 「高等教育研究会編；大学は生き残れるか」
つむぎ出版(1992),(p9~p73)
11. 「物理屋さんとその研究方法」、数学セミナー 32/5(1993),44
12. 「弘治さんのこと」
故坂東弘治博士追悼文集、Quality of Life II(1993),109

13. 「現代社会と科学」
河合塾出版：「ガイドライン」 94/9
14. 「物質の基本法則と時空」
唯物論と現代 16号(1995),(p2~p15)
15. 「現代の社会と科学」
一宮高校講演記録(1995/6/5)
16. 「核研40周年を祝う - 私の中の核研」
核研所内報 特集号(1996.3.15)
17. 「アメフト雑感」
京大応援団誌、団誌第39号(1996)
18. 「二十一世紀の大学」
全大教時報、Vol.20(1996.12),15
19. 「21世紀を担う若手研究者たちへ」
日本の科学者 vol.32(1997.2),32
20. 「現代の社会と物理学」
研修講座講演録(1996 vol.10 徳島県教育研修センター)
21. 「複雑系とは何か」
複雑系に対する私の立場
経済科学通信(1997 85号)
22. 「社会の発展に貢献する科学的精神」
前衛 No.691(1997 10月号,p174~p184)
23. 「科学と人」
京都新聞 毎木曜日六回連載(1997/9/11 ~ 11/6, 9/25,10/23,10/30の週欠)
24. 「アブストラクションのすすめ」
研究の世界(リベルダ出版、日本科学者会議編,1998) p50-52
25. 「今この名古屋でも科学は作られているのですか」
中日新聞(1998年10月、記者の求めにより寄稿)
26. 「科学は人類の自由を拡大する」 in 向陽創立50周年記念誌(1998)

27. 「核研、心の故郷」(19??)
核研 OB 会 [原子核研究所を想う会] 文集
- 28 「“独法化”の奔流の中で思うこと」
物理学会誌 談話室欄, 第 56 巻 5 号 (2001),344
- 29 「師、坂田昌一先生のこと」
学術月報 ” 師を語る” 欄, vol 54,No 4(2001),104
- 30 「人と科学」(特集: 貴方が考える科学とは)
岩波・科学 vol 71 No 4+5(2001),371
- 31 「21 世紀と大学」
学士会会報 (2002-II,No835)
- 32 「21^cの大学像」 in 大学の倫理 (p42 - p52, 東京大学出版会),
第 2 回ミュンヘン大学・東京大学シンポジウム基調報告 (報告集 p21)
at 東京大学山上会館 (02/3/21 - 23)
33. 「今教育に必要なこと」朝日新聞 (2002 年 8 月 21 日)
21 面 科学・医療面 “直言欄”
- 34 「学問のタイムスケールを考える」
J S A 岡山大学支部主催講演会レジュメ (04/0825)
35. 講演「科学者の社会的責任は何処から生じるか？」
(at 竜谷大 JSA 主催 04/12.07 記録は JSA 京都支部ニュース No250,04.12.17)
36. 「自著を語る」京産大 Lib. vol 31,no2(04.10.15)
37. 「アインシュタインの天才を思う」
岩波・科学: アインシュタイン・奇跡の年から 100 年特集 (vol.75 No.2, 2005)
38. 「Open Café 京都自由大学開校を祝う」
学長挨拶 at 開校記念シンポジウム (開学アピール 附属文書、05/02.08)
39. 「戦争したいですか」
毎日新聞、語る欄:,23 面 (2005.5.5)
40. 「数学は人類がもっている最も厳密な言葉である」
数学者上野氏との対談 in 数学の楽しみ (05 夏号 p1 -p18)

41. 「鼎談 江崎、松田三氏と (at 2005.11.26)」
(京産大40周年行事、NHK・読売協賛、読売紙面(200511.26)16, 7面)
Forum: Creativity in the 21st Century」 (パンフレド)
42. 「真理へのアプローチ、媒介項は何か」 (2005.9.08 at 野依記念館)
科学研究における画期的飛躍は何によってもたらされるか。
歴史の中にその手がかりを探る (名大高等研・スーパー・レクチャー 記録)
(正式記録は名大理同窓会報 Spring 2006:No5 p6 - p10)
43. 「牧二郎記念シンポジウム」 (p53 at 基研, 05.11.05)
44. 「学問の系譜」 Proceedings(2005.11.7 - 8. 基礎物理学研究所発行)
45. 「大学での学びをどう進めるか」
(民主青年新聞 2006年4月3日 6 - 7面)
46. 「湯川後の日本の素粒子論」 (朝日新聞夕刊コラム欄 2006:6.30, 7.07, 14, 21)
47. 「科学の源流」 (日本の科学者; 扉の言葉 2007. 1号)

素粒子物理学の展望・解説

1. シンポジウム; 素粒子論の現状と課題
「複合模型の課題」、素研 50(1975),464
2. 「最近の研究から; 構成子の閉じ込め」
物理学会誌 30(1975),730
3. 「素粒子物理学の近況」
岩波講座: 現代物理学の基礎 (第二版) 月報 No11(1978.12)(第10巻、第11回
配本)
4. シンポジウム: 高エネルギー重イオン研究計画; 「コメント」
原子核研究 24(1980),42
5. シンポジウム 素粒子論と物性論;
「素粒子論におけるクォークの閉じ込めの課題」、素研 61(1980),1003
6. 「Weinberg-Salam 理論の彼方に何が見えるか」
素研 63(1981) 別冊,S69

7. 「素粒子物理学の現状と展望」(p4~p10)
at 湯川秀樹博士追悼シンポジウム(1982.3.26)
8. 「物質の究極を探る：現代の統一理論」(物理学会編)
培風館 1982,(p153~p168)
9. 「現代の物質観」
日本の科学者 19(1984),574
10. 「素粒子物理学の発展」
学術月報 38(1985),593
11. 「素粒子物理学と構成的場の理論」
数学(岩波) 1986(春季号)176
12. シンポジウム；弦理論の基本的課題
「素粒子論の基本的課題」、素研 86(1993),D3
13. 日本の物理学 - 明日への展望「1.1 素粒子物理学分野」(分担)
学術会議物研連発行 1994/3/25
14. 「トップクォーク発見の報、走る」
数学セミナー,1994/7,(p50~52)
15. 21世紀未来フォーラム第8回議事録(通商産業省)
「物質の究極を探る」
16. 小林・益川対談
雑誌クォーク,94/10
17. 「素粒子としてのニュートリノ」
95年 物理学会講習会テキスト
18. 「現代の物質観とアインシュタインの夢」
岩波科学ライブラリー 32(1995)
19. 「ニュートリノと重力波」
日本物理学会編(裳華房；1997)、(p1~p26)
20. 「今もう一つの素粒子論入門」

丸善、パリティ 1997/4 ~ 1998/3 連載
単行本化(1998/9/3)、重版(00/10/10)

21. インタビュー(立花 隆)、「消えた反粒子のナゾに迫る」
朝日新聞社；サイアス 2000 年 09 号 (p122), 廃版でインタビューの続きでず
22. 「粒子と反粒子」
日本評論社、数学セミナー 2000/12 号 (p44 - p47)
23. 「物理なぜなぜ辞典」(第一冊:力学から相対論まで、第二冊:場から宇宙まで)
日本評論社(2000/10/15)、東京理科サークル編集、数項目寄稿
24. 「日本の科学者最前線」(中公新書 17、p285 - p190)
25. 「自然の謎と科学のロマン(宇宙と物質・編)」(新日本出版社、p35 - p61)
26. 「現代の物質観…クォークが拓いた道」
仁科博士記念講科学演会」講演録第 13 巻
27. 「素粒子論の発展と現代の物質観」
前衛 No.691 (2002 7 月号,p212~p229)
28. インタビュー(赤旗新聞日曜版,04.10.10 の 18,9 面)「素粒子最前線」
29. 「時空の性質と素粒子」
in 物理学会大阪支部主催公開講座(04/11.20)パンフレッド
30. 「益川敏英さんに聞く」(雑誌経済 06 年 4 月号, p10 - p20)
31. 「赤旗を語る」(新聞アカハタ:06/726, 3 面, 2 万号記念企画インタビュー)
32. 「生誕 100 年 湯川秀樹博士を語る」(京都新聞 07.1.18 10 面)
33. 「クォーク 6 つで物質の世界」(読売新聞 07.0806 12 面)
34. 「素粒子論、実験から新展開」(日経新聞 07.902 31 面)

書評・訳文

1. 「E.Paul et al;Elementary Particle Physics」
物理学会誌 32(1977),674

2. 「D.Bleecker; Gauge Theory and Variational Principles」
物理学会誌 37(1982),705 no8
3. 「K.Huang; クォーク・レプトンとゲージ場」
学燈 (丸善) 80(1983),60
4. 「朝永振一郎著作全集、開かれた研究所と指導者たち」
物理学会誌 38(1983),684 no8
5. 「竹内外史; リー代数と素粒子」
岩波・科学 54(1984),376
6. 「江沢洋・新井朝雄; 場の量子論と統計力学」
物理学会誌 44(1989),924 no12
7. 「中村量空; シュレディンガーの思索と生涯」
日経サイエンス 93/8
8. 「A.Hermann; アインシュタインの時代」
日経サイエンス 94/3
9. 「S.Weinberg; 宇宙の中の生命」特集: 宇宙と生命
(訳: 中西健一氏と)、日経サイエンス 94/12
日経サイエンス 別冊 No 115
10. 「M.Gell-Mann; クォークとジャガー」
日経サイエンス 98/1
11. 「石黒武彦著; 科学技術の行方」(萌書房)
図書新聞 05/820 6面

研究会報告

1. 研究会 Higher Resonance
「Higher Resonance 研究会の報告」、素研 36(1967),D8
2. 若手三者夏の学校: 素粒子・模型と構造
「Chiral Dynamics と Urbaryon Model」、素研 36(1967),475
3. 「現代語解説: Padé Approximation」
素研 38(1969),584

4. 研究会 素粒子の時空記述
「連続体の統計性」、素研 40(1969),D34(表題のみ)
5. 研究会 素粒子の模型と構造
「複合模型と Chiral Symmetry」、素研 40(1969),D44
6. 研究会 素粒子の時空記述
「相互作用と量子化」、素研 41(1970),C1(表題のみ)
7. 研究会 素粒子の模型と構造
「Chiral Symmetry と複合粒子模型」、素研 43(1971),A100
8. 研究会 Lepton を Probe とした Hadron の構造
「Quartet scheme of Hadrons in Chiral $U(4) \times U(4)$ 」、素研 45(1972), A42
9. 研究会 素粒子の模型と構造
「Fishnet, Duality と素粒子」、素研 45(1972),C73
10. 研究会 ハドロン対称性の破れと弱い相互作用
「カイラル対称性とその破れ - Weak Interaction の構造との関わりにおいて -
」、
素研 46(1973),F128
11. 研究会 弱い相互作用と電磁場の統一理論
「Higgs Gauge 型 Weak 模型とカイラル対称性」、素研 47(1973),C4
12. 研究会 素粒子の時空記述
「 $\pi^0 \rightarrow 2\gamma$ とパイオンの複合性について」、素研 47(1973),H38
13. 研究会 素粒子の時空記述
「量子時空中の場の理論」 (with K.Hasebe)、素研 48(1973),A38
14. 研究会 Urbaryon 模型と素粒子反応
「Spontaneous Symmetry Breaking in Vector Gluon Model」、素研 49(1974),D47
15. 研究会 素粒子の模型と構造
「Vector Gluon Model と自発的破れ」、素研 48(1974),B8
16. シンポジウム；物性、核、素粒子物理における自発的対称性の破れ
「新粒子についてのコメント」、素研 51(1975),A38

17. 研究会 ハドロン物理におけるライトライクアプローチ
「新粒子と四元模型」、素研 51(1975),C1
18. 研究会 素粒子の模型と構造
「閉じ込め問題とその機構について」、素研 52(1976),F15
19. 研究会 基本粒子の諸模型の検討
「Yang-Mills 場一元論」、素研 53(1976),E23
20. 研究会 高密度核物質
「高密度核物質の諸相といくつかのコメント」、素研 54(1976),A39
21. 研究会 素粒子における非摂動論的アプローチ；
場の理論のダイナミカルな諸問題
「Lattice Guage Theory と Infrared Problem」、素研 54(1977),F3
22. 素粒子論シンポジウム
「Yang-Mills 場と閉じ込め」、素研 57(1978),A29
23. 研究会 高密度核物質
「三つのコメント」、素研 57(1978),B105
24. 第三回素粒子論冬季集中セミナー
「Finite Geometry」、素研 57(1978),B87
25. 研究会 扱った素粒子
「群G上の量子力学」、素研 59(1979),D1
26. 研究会 素粒子論における場の理論
「Gauge Transformation Group と θ -vacuum」、素研 59(1979),D79
27. 研究会 素粒子論における場の理論
「Compact 群上の量子力学」、素研 61(1980),597
28. 研究会 素粒子と時空記述
「三題断」、素研 62(1981)A13
29. 研究会 大振幅集団運動と微視的理論
「Self-Consistent Collective-coordinate for the Large-Amplitude Nuclear Motion」 (with T.Marumori etal), 素研 61(1980),1171

30. 研究会（物研連・核研主催）高エネルギー重イオン計画シンポジウム
「素粒子物理から見て」、原子核研究 24(1980)No5,42
31. 研究会 素粒子物理学に於ける場の理論
「繰り込み可能性、Minimal Coupling は原理か？」、素研 63(1981),B2
32. 研究会 統一ゲージ理論
「Kaluza - Klein 理論の問題点と今後の方向」、素研 69(1984),C1
33. 研究会 素粒子と物性論におけるトポロジーに関連した諸現象
「アノマリーを持つ場の理論の量子化」、素研 75(1987),E59
34. 研究会 強結合相ゲージ理論と統一模型
「10年前に分かっていたこと」、素研 78(1988),A1
35. 研究会 素粒子論の基本的課題 - 90年代を目指して
「Hybrid Perturbation Method」 素研、84(1990),D1